

グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース 地球的課題検討部会(第3回)の結果について

1. 概要

1/29(金)開催の地球的課題検討部会(第3回)においては、「ICTで夢を作れるプロジェクト」に関する構成員からのプレゼンテーションの後、フリーディスカッションが行われた。

2. 構成員プレゼンテーションの概要

- (1) **村上座長代理**: 我が国では「ICT離れ」が進んでおり、生活者に夢を伝え、産業が夢の実現を進め、若手研究者・若者に夢をもたらす「ICT『夢』プロジェクト」が必要。例えば研究開発について、テーマ自体を提案してもらうこと、若い専任の研究者を充てること等を内容とする制度としてはどうか。
- (2) **喜多構成員**: 高齢者・障がい者・子ども・外国人を対象にするとICTの有用性が際立つ。取組に当たり、開発の「死の谷」を超えるための公的援助や、使う側の心理面も考慮した地域との連携が必要。
- (3) **森構成員**: 環境とICTについては、「見える化」が期待されている。個人が環境に配慮した行動の蓄積を「見える化」する「環境貯金」や「環境万歩計」を提案する。そのほか、運転免許を持たない高齢者等がオンデマンドで交通システムを利用できる「電子金斗雲」システムを提案する。
- (4) **山田構成員**: 高齢者・チャレンジドが使いやすいICT機器・サービスの開発に当たっては、公共調達の活用が重要。米国の公共調達制度や我が国のグリーン購入法に倣った法制度の導入を目指すべき。
- (5) **金子座長**: 図書の関係性を三次元の街に見立てて映像化した「図書街」プロジェクトについて紹介。

3. フリーディスカッションにおける主な論点とやり取り

(1) 研究開発について

- ・ ICTの研究開発に15年で5兆円投資してもこの惨状。海外からの参加を得て進めるべき。
- ・ 研究者の視点だけではなく、ニーズを見ながら進める必要がある。座長代理のアイデアや「原ロビジョン」の「デジタルネイティブ新事業創出プロジェクト」にしっかり取り組むべき。
- ・ 他分野でのICTの活用技術を研究する場合には、一定期間現場(病院等)に行くことが必要。

(2) 高齢者・チャレンジドが使いやすいICTについて

- ・ 政府調達による購入の意思を示すことが、中長期的に開発コストの低減につながる。
- ・ ユニバーサル化に取り組むことは、チャレンジドへの提供という視点だけではなく、新興国市場への展開という点でも有用。

(3) 環境とICTについて

- ・ 「Green of ICT」と「Green by ICT」は重要。
- ・ ICTの活用は石油文明や大量生産・大量消費からの決別につながる。我が国は「環境×ICT」で世界に売り出し、競争力強化につなげるべき。

(4) 「図書街」プロジェクトについて

- ・ 検索分野でGoogleなどが生まれたが、今後、検索の先にあるナビゲーションという仕組みに大きな可能性・夢があるのではないか。
- ・ ICTによって新たな関連付けを行うことで、正規分布ではない領域にリーチが可能となる。例えば政府が持っている情報を開示すれば、新たな関連付けが行われビジネスにもつながる。

4. その他

金子座長より、医療分野でのICT利活用方策を検討する作業チームの設置の提案があり、了承された。